

唐丹の歴史いろいろ(三)

大船渡市吉浜

木村正継



頃、立根村上屋敷という所を通りかかった時に二人の浪人に待ち伏せされ、口をふさがれ手を後ろに縛られ鹿鼻山(ししばなやま)の麓迄連れて行かれ、首を切られて殺され、お金を奪い

宅しました。どうしたらいいものかといろいろ相談した結果翌日大晦日の朝八時頃肝入(村長)さんに知らせました。肝入さんは、村の役付達を大急ぎで招集し、山へ登って見届け、その夜の内に今泉に連絡しました。

一人は牢内で死に、一人は十二月二十二日遼野で御仕置きになったそうです。その時の歌に、「孫太郎殺した金は 身につかず身につく金は 今日の一太刀」と詠んだそうです。三十歳位の犯人だったそうです。

じつまが合わなかったりしています。他の例ではもっと疑問な点があります。しかし、それぞれに面白く、真実がその中に混じっていると思います。

普生家文書コピーの写真・表紙と事件分

孫太郎の悲劇

大船渡市立根(たっこん)町字普生の屋号「下」現当主普生文夫氏所蔵の古文書を現代文に直して孫太郎事件をご紹介します。

日にちの矛盾も推定で直しています。

明治二年(一八六九年)十二月二十九日、唐丹村大

石浜の上野与惣治殿が召し抱えている孫太郎という十九才の若者が、お金百五拾五切(三十八両三分・今のお金で四百万円位)持って盛から帰る途中、朝八時

取られました。

犯人達は、大急ぎで大石浜に行き、船を雇い本唐丹(本郷)に上って、南部路へ逃げて行きました。

三十日午前九時前、立根村敷合(普生)の新四郎・円之助・田代の三郎七の三人の若者達が馬を引いて木伐に山に登る時、孫太郎の死体を発見し、大変驚き帰

御役人が手分けをし、この犯人の捜索が始まりました。

た。それから江刺県の御役人が来て、一月七日に本見分し遺体を大石に運びました。

それ迄は、昼夜順番を決めて監視をしました。犯人の浪士二人は、南部で召し取られ牢に入れられたということです。

大金は、残ったといわれています。

※はばき||この場合、脚半(きやはん)だったと思われる。

脚半||脛に巻いて歩き易くしたもの。この事件は、色々な言い伝えや、物語になっていきます。この文章でも年月日のつ



「左頁へつづく」